

かけはし





(写真上段左より)ビル・ハミター ヘッドコーチ、ホイットニー・ドステイ選手、エマ・シーク選手、ニコル・ニエバス選手、ミシェル・グルード アシスタントコーチ(写真下段)市内中学生



パラリンピック金メダリストと 一宮市中学生の七夕交流

市役所本庁舎 14階 1402会議室 7月27日

アメリカ女子シットイングバレーボールチームの選手3名、チーム責任者2名と、市内中学生との七夕交流会がありました。副市長のあいさつの中で、「2020年のパラリンピック時に、一宮でキャンプを行ってもらうつもりでしたが、それが出来なかったので、今日来て頂けてとても嬉しい」との話でした。中学生は、応募で選ばれたのですが、「パラリンピックの金メダリストに会えるのが面白そうだったから」とか「お母さんの勧めだったけれど、作文で応募しているうちに楽しみになった」など様々な動機で、参加していました。

始めは皆さん少し緊張気味でしたが、会が始まり、まず一宮市の案内や、七夕の説明を各自、英語でのプレゼンテーションでした。本町商店街、真清田神社、一宮モーニング、織姫と彦星

の物語、七夕の飾りつけ、盆踊り、イタリアトレビーズとのフレンドシップの話まで、全て英語で話をしてくれました。シットイングバレーボールチームからの感想は、「英語はとても良かった。よく準備されたのだろうと感じた」とか「七夕の物語が面白かった、意味もよく分かりました」とか「知らない人の前でよく話されていました」など、とても良い評価でした。チームの責任者の方からは、「七夕で孫へのお土産には、何がお勧めですか？」の質問があり、中学生からは、「お面、スーパーボール、バルンヨーヨー、扇子は如何ですか」と答えていました。

最後に、皆さんで、おばけのマールの短冊に願い事を書いて、笹飾りにつるしました。この体験を通し、中学生の彼らに、自信と勇気を与えてくれたことと思います。(みかん)

七夕ステージ トレビーズ市から生中継!

ビル3階シビックテラス 7月28日



おりもの感謝祭一宮七夕まつりの2日目午後3時、酷暑の i ビル3階シビックテラスのステージと、20度で涼しい朝8時のイタリアの友好都市トレビーズをオンラインで結び紹介するイベントがありました。シビックテラスからは、アコーディオン奏者のアンジェロ・アウイリーニさんと司会のアリスさん、そして、トレビーズからは、自撮り棒を持ったキアーラさんが登場し生中継しました。

アンジェロさんの「チャルダッシュ」オペラ「フィガロ」「ボラーレ」の演奏の合間に、アリスさんとキ



アーラさんの掛け合いでトレビーズ市を紹介しました。キアーラさんは、ミラノ、ヴェネツィアなどと繋がるトレビーズ駅を出発して、徒歩で5分くらい離れた市内の中心部を流れるシーレ川と、さらに歩いてマリオ・デル・モナコ市立劇場を紹介しました。この劇場は、1690年に完成し第2次世界大戦で破壊されたのちに再建されたもので、オペラなどを公演する由緒正しい劇場だとのこと。キアーラさんもシェークスピアの「ロミオとジュリエット」をこの劇場に見に行ったことがあるそうです。そして、街の中心部にあるシニョーリ広場まで、自撮り棒を持って生中継しながら歩きました。キアーラさんの映像からは、街の建物、すれ違う人々や車、スーパー、銀行、工事中の石畳の道、真っ青な空など、イタリアらしい風景が見られました。最後に、美味しそうなイタリ

アのモーニング。桃のジャムが入った甘いクロワッサンと、エスプレッソとカプチーノの紹介がありました。イタリア人は甘いパンを食べることが多く、キアーラさんはジャムパンやヌテラというチョコクリームをつけて食べるのが好きだそうです。

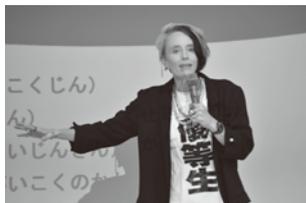


これからイタリア旅行を計画される方に耳寄りな情報です。一宮市の友好都市トレビーズは、ヴェネツィアから普通電車で30分、運賃も600円くらいで行けます。運河が多いことから小さなヴェネツィアと呼ばれています。ヴェネツィアに比べ、観光客が少なく、物価も安いです。また市内にはたくさんの教会、城壁、城門があります。隣り街には、世界遺産である美しいぶどう畑「プロセッコの丘」と、美しい建築物が点在する「ヴィチエンツァ市街とヴェネト地方のパラディーオ様式の邸宅群」があります。ぜひイタリア旅行の計画を立てる時には、トレビーズも訪問先の一つにしてくださいね。(ゆご)



世界をまなぼう！ グローバルサマーセミナー

市役所本庁舎14階1401大会議室 8月9日



セミナー会場には7つのコーナーがあり、午前10時から午後4時まで開催され、夏休みの家族連れのみならずで賑わいました。

『アンちゃんと楽しく学ぼう、和製英語』では、アメリカ・バージニア州生まれのアン・クレシーニ先生がお話ししました。先生は1997年に来日し、日本語と英語に大きな違いがあることや、カタカナ外来語の魅力に興味をもちはじめました。私たちが日常何気なく話している和製英語や外来語を、外国人からのメッセージとしておもしろく解説しました。カタカナ語は英語かと思いきや、ランドセルはオランダ語、マルシェはフランス語、パンはポルトガル語など、いろいろな国の言葉が使われます。外国の人に最も分からないのは和製英語です。一例を挙げるとオープンカー (Convertible)、ワンピース (Dress)、ペットボトル (Plastic bottle) のようなものがあります。

ベビーカーは英語で Stroller と言いますが、日本人は分かりやすく意味が伝わるよう、ベビーカーと言い換えました。これらの和製英語は、簡単でとても分かりやすくコミュニケーションツールとして優れた言葉です。最後に先生の好きな言葉「グローバルな時代、みんな違ってみんないい！」を贈ってくれました。

『よくわかる・わからない韓国の食文化』では、名古屋国際センターのヤン・スング先生が、「みなさんの知っている韓国料理はどんなものがありますか？」と、質問ではじまりました。参加者から「参鶏湯」、「ビビンバ」などが挙げられました。韓国のあいさつことばで、「ごはん食べましたか？」と言うこともあるそうです。また、料理が一品ずつ出てくる日本と違って、一気に出てくるそうです。その料理を自分の好みの順にマイペースで食べてよいそうです。

日本でも韓国のキムチがよく食べられますが、その唐辛子は日本から伝わったと聞きました。

日本との違いや自分の体験談を交えながら、韓国の食文化をたのしく紹介されました。

『ベトナムへようこそ！』のコーナーは、きれいな民族衣装、紫のアオザイを着たグエン・ティ・ホン・アン先生から、ベトナム語は北部・中部・南部で

異なることや、ベトナム戦争のクチトンネルについて学びました。トンネルは3階になっていて、会議室や病院、学校もあり、地下の町になっていたそうです。その実際の様子を説明とスライドで学びました。

『ニュージーランドのポイで遊ぼう！』のコーナーでは、国際交流員のアリスさんから、ポイはニュージーランドの先住民マオリがダンスに使う用具であることなどを学びました。はじめはポイに慣れない手つきの参加者でしたが、次第に笑顔で上手に操っていました。

『クラフトコーナー』はベネチアンマスク、アニマルペーパークラフトなど、自分好みのデコや色付けで、作品づくりを楽しみました。



『世界をめくり隊～英語で遊ぼう～』のコーナーは、愛知淑徳大学のボランティアが子供たちと一緒に、英語のレシピを使って、遊びながらのしくピザを作りました。

『給食から世界を知るワークショップ』では、国際交流協会フ

アシ 138 のリンゴ君とボランティアのみなさんがいっしょに、食と世界のつながりをみんなで話し合って考えました。ワークショップの最後で“リンゴ君と学べて楽しかった”との声がでて、子供たちにとっても好評でした。

(ドリアン)



世界をあそぼう！ フレンドシップフェスティバル

イオンモール木曽川ノースコート 9月23日～9月24日



▲Nga Hau E Wha!による迫力のマオリパフォーマンス



▲参加者の皆さんも一緒に踊りました！



▲TAKISUNIによる南米アンデス・ラテンの音楽



▲クラフト体験コーナーでは毛糸でニュージーランド動物を作りました！



▲イタリア・トレヴィーゾのトランプ「カルテ トレヴィザーネ」で国際交流員とババ抜き対決

良かった。」との感想がありました。

企画側からは、今後はさらにボランティアに外国籍の人を増やし、来客についても、もっと外国籍の方にたくさん来てもらえるようにしたいとのことでした。
(katsu)

ステージでは世界各国の楽しい音楽やダンスで、たくさんの来客が魅了されました。マオリ族のパフォーマンスでは一緒にポーズを取ったり、南米アンデスの音楽ではスペイン語での挨拶を習ったり、ステージと客席が一体になって楽しい時間を過ごせました。体験コーナーではクラフト、ゲーム、民族衣装でその国の人になりきって記念撮影など、盛りだくさんの体験を楽しんでいました。来客からは「体験コーナーの遊びが楽しかった。」「アンデスの音楽がよかった。」など、さまざまな好印象の感想をいただきました。

ボランティアの人たちからは、「すごく疲れたけど子供たちの笑顔を見ると、ほんとうにやって



▲世界の民族衣装を体験！

七夕ホームステイ体験談

各家庭 7月29日～7月30日

「七夕ホームステイ」とは、「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」の開催時期に合わせて行うホームステイ事業です。今回は4年ぶりの実施で、協会親善ボランティア7家庭と地域の留学生9名が参加しました。

浅井さんファミリー

コロナ前は計3回、コロナ後は初の受け入れで、今回で4回目のホストファミリーとなりました。

今回は岐阜大の大学院連合農学研究科で勉強されているインド人のキシュロイさん。優しいエンジニアの方でした。



2016年に初受け入れをした時は子供たちは、上の娘が6歳で、下の息子が4歳。身振り手振りで訳が分からず、可愛がってもらっただけだったのが、今回は、コミュニケーション能力が上がって、カタコトの英語と、ほとんど日本語(笑)でしたが、一緒に料理を作ったり、ゲームをしたりしました。

酷暑の中、汗をかきつつ、一宮七夕まつりや買い物へ行ったり。138タワーや犬山城へ行きました。自宅の家庭菜園を見てもらったり。

キシュロイさんと一緒に1泊2日の時間。あっという間でした^^ 心温まる、穏やかなひとときを、共有できました。ありがとうございました。



川口さんファミリー

今回「七夕ホームステイ」に参加して、インドネシア出身のハイさん、中国出身のキョウさんをお迎えしました。お国も年齢も違う二人でしたが、共通言語が日本語なので、日本語で会話する様子がとても微笑ましく思いました。

一日目は日本の経済成長を牽引したモノづくりの一端を見てもらえればと思い、「トヨタ産業技術記念館」を案内しました。お二人の関心をひくか心配しましたが、所々で行われるスタッフの説明や実演を興味深く見学しました。



二日目はアニメやアイドル関連のグッズを展示販売しているお店に出かけました。二人とも日本のアニメやアイドルにとっても詳しく、改めてそれらが海外でも人気があり、日本を知るきっかけになっていることを痛感しました。

食事は家の畑で取り立ての野菜を使った料理を食べてもらいました。美味しいと言って食べてくれたので、妻もほっとしました。

海外の若者と接する機会を得て、私たち夫婦もとても良い経験ができました。日本に好感を持ってくれる海外の方が増えて、留学生の母国と日本がより良い関係になることを願っています。



七夕ホームステイフォトギャラリー



おとなりさん

みなさんはフランスのボルドーやコニャックという地名を一度は聞いたことがありますよね?今回はその近くのアンブレムという街の出身で、妙興寺に住んでいるルシアン・デボートルさんを紹介します。

ルシアンさんは2020年に来日し、現在、稲沢市の愛知啓成高校で英語とフランス語を教えています。それ以前も3回留学のため日本にきています。最初に来たのは17歳の時、愛知啓成高校へ1年間、2回目は福岡市へ1ヶ月間、3回目は奈良の天理大学へ1年間。この時に居酒屋でアルバイトをしていて、そのおかげで日本語が格段に上達したとか。

実は、ルシアンさんは8月に結婚したばかりの新婚さん。奥さんは日本人の芽里さんで、彼が2020年に日本へ来たばかりの頃、名古屋駅で運命の出会いがあり、3年間の付き合いを経てめでたく結ばれました。

ルシアンさんの出身地アンブレムは、人口4万人ほどのとても美しい街で、コニャックの近くということもあり、お酒がたいへん美味しい

そうです。そして毎年、アンブレム国際漫画祭が開催され、今まで鳥山明など日本人もたくさん受賞しています。

日本に住みたいと思った理由は、安全でとても綺麗な国だからだそうです。将来の夢は庭がある家を買って子供を育てること。子供は2人欲しくて、もう既に女の子の名前は考えてあるそうです。

趣味は自転車とビデオゲームで、自宅から職場までも毎日自転車通っているそうです。休日は芽里さんと自転車でピクニックによく行っており、もっか庄内緑地公園がお気に入りのようです。旅行も好きなのですが、特定のどこがいいということではなく、芽里さんと行けるところならどこでも好きだと、とってもほんわりと温かい感じで語ってくれました。(katsu)



iiia information

English Free Talk @NIGHT

- ▼日 時/12月15日(金曜日)午後6時~午後7時
- ▼場 所/オリナス一宮 1階 ホール
- ▼内 容/参加者同士で自由に英会話を楽しめます。自信のない方は日本語を混ぜてもOKです。お菓子と飲み物を持参してください。
- ▼トークテーマ/Are you a night owl or an early bird?
- ▼スタッフ/ニュージーランド出身国際交流員 ヤング・アリス
イタリア出身国際交流員 スカルデッラート・キアラ
- ▼対 象/地域在住の中学生レベルの英語の知識がある方
- ▼参 加 料/無料
- ▼定 員/先着50名
- ▼申し込み/12月14日(木曜日)午後5時までに、
電話(0586-85-7076)または右の二次元コードからお申し込みください。

お申込み



国際交流ふれあいボウリング

- ▼日 時/1月14日(日)午後3時~午後5時頃
- ▼場 所/アソビックスびさい ボウリング場
- ▼内 容/外国籍の方と一緒にチームを組んでボウリングを楽しみます。
- ▼対 象/市内在住、在学、在勤の方
- ▼参 加 料/1人あたり500円
- ▼定 員/日本国籍の方20名程度、外国籍の方20名程度(抽選)
- ▼申し込み/12月18日(月曜日)までに、
電話(0586-85-7076)または右の二次元コードからお申し込みください。

お申込み



*iiiaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。詳しくはiiia事務局までお問い合わせください。



地球あっち こっち



パンデミックに負けない！ アメリカ留学

早川 莉乃 さん

2022年2月、カルフォルニア州にあるグレンデール・コミュニティカレッジで、3D アニメーションを学ぶために渡米しました。

私は、入学資格や奨学金を得ていたにもかかわらず、新型コロナで移動が制限されていたため、1年間日本からリモートで授業を受けていました。ようやく渡米できるようになっても、コロナ禍であったため、飛行機の本数が少なく、成田発しか便がない上、成田エクスプレスは朝夕しかないなど、成田までも大変でした。アメリカ入国には72時間以内のコロナの陰性証明が必要で、その検査をやっている病院を探して取得しました。もし、そこで陽性だったらと、ひやひやしながら検査を受けました。出入国はいろいろ大変だったので、なんとか留学先にたどり着いたときは、ほっとしました。

グレンデール・コミュニティカレッジは、文系から理系、芸術系など様々な学科が学べるカリフォルニア州立の2年制コミュニティカレッジで、この学生の多くはここで学んだ後、4年制大学へ編入していきます。大学が位置するロサンゼルス郡は映画やアニメーションの会社が多い地域なので、アメリカのアニメーション業界について学びやすい環境でした。ある授業では、実際に現場で働いている人が講師で、現場の話を聞きながら実践的にアニメーション技術を学べ、とても刺激的でした。2Dアニメーションを作る授業やキャラクターデザインの授業、



3Dアニメーションモデルの骨組みを作る授業など、アニメーションに関わる技術を多角的に履修しました。

最初の3か月はホームステイをしました。

ホストファミリーはフィリピンにルーツを持つ家族で、週末は一緒に教会に行ったり、イベントに連れて

行ってくれたり、家族のように接してくれました。その後、ネットでルームシェアの相手を募集しているのを見つけて引っ越しました。家賃は安くなったのですが、物価が高騰する中で自炊をしながら食費を節約するのは大変でした。大学での昼食も、コロナ禍で食堂が休止していたため、サンドイッチなどのお弁当を作って持って行きました。毎週火曜日は「TacoTuesday (タコ チューズデー)」と言って、大学近くのお店でタコスが1個99¢で食べられるので、よく利用していました。アルバイトは基本的に留学生はできませんが、学校が募集した仕事ならOKということで、先生の推薦もあり、特定の授業のインストラクターをしていました。



ロサンゼルスではダウントウンを中心に治安が悪い地域が点在しており、コロナ禍で増加したホームレスが社会問題になっています。ロサンゼルス市中心市街地に行くたびに道端に並ぶテントや麻薬の匂いをまとわせながら彷徨う人々の姿を目にした衝撃は、今でも強く心に残っています。大学のあるグレンデール市は、ロサンゼルス周辺地域では比較的治安がいい街とされています。それでも夜遅くに大学から帰ることになった際は、友人たちに一人で帰ることを心配されて家まで送ってもらう話がすぐ持ち上がるほど、人々の危機管理意識は日本よりずっと高いと感じました。

リモートでも、ある程度授業は受けられました。やはり現地へ行き、対面で様々な人々と出会い、実際のキャンパスで過ごした経験には、リモート留学では得られない多くの学びがありました。近いうちに、再びアメリカに行ってもっと勉強したいと思っています。

リモートでも、ある程度授業は受けられました。やはり現地へ行き、対面で様々な人々と出会い、実際のキャンパスで過ごした経験には、リモート留学では得られない多くの学びがありました。近いうちに、再びアメリカに行ってもっと勉強したいと思っています。

編集後記

今年の夏、花を植えながらたくさん歩くとバッジがもらえるスマホゲームを散歩のお供に始めたら、途端に歩くのが楽しくなった。ゲーム内で友達になったフランス、ベルギー、ギリシャなどいろんな国の人から風景入りカードが届くのもモチベーション維持に役立っている。ようやく涼しい季節になったので、その友達と歩数を競いながら、近所を歩いて探索する日課をこのまま続けていきたい。(伏原)

発行：一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市役所本庁舎9階 観光交流課内)

- 一宮市の国際交流協会の中心となって活躍いただく親善ボランティアを随時募集しております。
- みなさんも親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。
- *この「かけはし」も親善ボランティアにより取材・編集されています。
- ご意見・ご感想をお待ちしております。【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
- 当協会に関する情報はウェブサイトをご覧ください。【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iaa/】